

第10章 自己点検評価

10-1 学長室

達成目標（1）

学内諸活動の自己点検評価を毎年実施し、改善へと結びつく自己点検評価体制を構築する。

行動目標

教育研究年報の在り方を検討し、自己点検評価活動と連動させる。
2010年度目標：自己点検評価報告書の年報としての編集を進める。

現状説明

従来、年報の編集には2年間の時間を要していた。2010年度は、第三者評価の受審の年でもあり、2009年度においては、2009年度版の自己点検評価報告書を年度末までに完成させることができた。この実績を踏まえ、2010年度においても、自己点検活動を年度内に実施し、報告書としてまとめる見通しが立っている。その手法に関しては、4月の時点で学部長等の了承を得つつ、大学評価委員会において議論しながら具体化することができた。単年度での自己点検評価活動が軌道に乗ろうとしている。

点検・評価**<行動目標の実現度> A**

当初の目標を十分達成することができた。

<成果と認められる事項>

単年度での自己点検評価が実現するとともに、自己点検評価活動の内容について、ダイジェスト版を発行できる見通しがついた。

<改善すべき事項>

PDCAサイクルの手法を踏まえた自己点検評価活動が、改善につながっていくが、教職員に対して、その手法や内容、重要性に対する理解をさらに深めていく必要がある。

今後の改善・改革に向けた方策**<長所の維持・伸長方法>**

単年度での自己点検評価活動を今後数年は同様に継続していく。

<改善方策>

自己点検評価報告書の作成方法など、説明会を実施し、その重要性や改善につながるPDCAサイクルの具体的体制の構築を図っていく。

達成目標（2）

学部等より提出された自己点検評価結果と改善策を「大学評価委員会」が点検して、改革成果に関する評価と改善策を付して学長に報告する。その結果を踏まえ、学長は、毎年3月に学部等の長に対し、個別に「学部マネジメントおよび教育改革」に関する指示・課題を与える。（毎年度）

行動目標

自己点検評価委員会を立ち上げ、課題抽出を行うとともに、翌年度の方針に活かす。
2010年度目標：2009年度自己点検評価報告書の課題抽出と翌年度の方針策定。

現状説明

2010年度は、新たなPDCAの構造が明確になった自己点検評価報告書の作成が可能になりつつある。大学評価委員会で、報告書の点検を行い、大学として取り組むべき課題・問題の抽出結果が答申として学長に報告される。あわせて、大学基準協会による第三者評価報告書においても課題が指定されていることから、これらと合わせて学長に報告される。

点検・評価**<行動目標の実現度> A**

新たなPDCAの構造が明確になった自己点検評価報告書から抽出された課題等が学長に答申される。あわせて、3月に開催される学部長懇談研修会においては、学部長のマネジメント及び教育改革への取り組みについて報告されることとなり、学部ごとの対応について、学長から直接指示及び課題の提案が行える体制となった。

<成果と認められる事項>

各学部において、PDCAの構造が明確になった自己点検評価報告書作りが導入された結果、報告書の作成が以前よりも容易になるとともに、課題の抽出方法もより明確になってきている。

<改善すべき事項>

特になし。

今後の改善・改革に向けた方策**<長所の維持・伸長方法>**

自己点検評価報告書の作成が、具体的な改善につなげられるよう、さらなる自己点検評価体制の見直しを継続していく。